

活動名	令和3年度応用理学研究会野外見学会 (CPD番号 3-5)
主催	(公社) 日本技術士会東北本部岩手県支部応用理学研究会
日時	2021年11月12日(金) 10:00~16:30
場所	釜石市栗林地区、鶴住居・根浜地区、旧釜石鉱山事務所
参加人数等	総勢20人(講師2人を含む)

活動内容

岩手県支部応用理学研究会では、昨年度に引き続き、継続研鑽の一環として現場見学会を企画し、次のような内容と行程で見学を行いました。

テーマ：釜石市栗林地区の古生代地質の観察と周辺のジオポイントの見学

講師：望月貴史氏(岩手県立博物館 専門学芸員)

：佐藤修一郎氏(岩手県立博物館 専門学芸調査員)

行程：8:15 道の駅とうわ駐車場に集合し、乗用車に分乗して出発

10:00~12:00 栗林銭座跡から栗林地区の地質観察

- ・栗林地区①(ペルム紀栗林層)
- ・栗林地区②(デボン紀千丈ヶ滝層)
- ・栗林地区③(石炭紀小川層)

12:00~13:00 昼食(うのすまい・トモス:「浜のくまさん」お弁当)

13:00~13:30 休憩&「いのちをつなぐ未来館」など自由見学

13:40~14:10 ・鶴住居根浜地区(三疊紀~ジュラ紀北部北上帯釜石層)

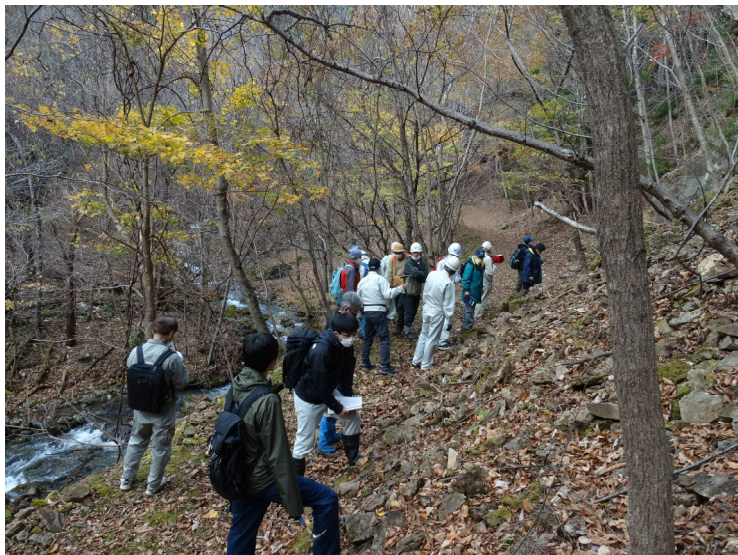
14:50~16:20 ・釜石鉱山(三陸ジオパークジオサイト)見学(旧釜石鉱山事務所)

16:30 帰路、道の駅とうわ等で順次解散

当日は、盛岡地域で雨天にも拘らず、見学地の釜石では幸いにも好天に恵まれました。午前中は、釜石市栗林地区で林道を歩きながら古生代の地質を観察し、午後の見学では、根浜地区海岸で北部北上帯の層理が明瞭な露頭を観察しました。丁寧なご説明を頂いた講師のご両名に、深く感謝を申し上げます。その後の旧釜石鉱山事務所の見学では、釜石市世界遺産課の森様から丁寧なご説明を頂戴し、予定時間を超過して見学を行いました。

《菅原 弘 記》

・・・活動状況写真・・・



釜石市栗林地区ペルム紀栗林層の地質観察風景

林道を暫く歩き少し疲れた頃、最初の観察ポイントに到着。栗林層は古生代ペルム紀の地層で、全体の地層の厚さは700mを超えと言われ、岩相は礫岩を伴う最下部と、上位の細い砂岩層を含む縞状泥岩から成る。露頭では大小扁平な空隙を多数有する砂岩基質の岩相で、空隙は石灰岩礫の溶脱跡であるとの説明を頂いた。

銭座跡と観察ポイント間にあるであろう南部北上帯と北部北上帯の境界について、講師の望月先生に尋ねた結果、正確な境界は不明であり、途中で見える泥岩層は上位栗林層の地質の可能性あるとの説明を頂きました。



デボン紀千丈ヶ滝層について講師の説明を聞く参加者

2箇所目のポイントは急崖に沿う林道を登った千丈ヶ滝層の露頭である。

千丈ヶ滝層はシルル紀後期～デボン紀後期の地層で、今回の見学では最も古い地層である。全体の層厚は800～1000m程とされ、下部の玄武岩や安山岩などの火山岩類と上部の淡緑色～赤紫色の凝灰岩や凝灰質砂岩・泥岩からなる部分に大別される。

上部の泥岩からはデボン紀の植物化石が見かるとの望月先生の説明を聞き、参加者は暫し化石探しに没頭し、見事に採取された方もいらっしゃいました。



石炭紀小川層の石灰岩による滝を背景に集合写真

3箇所目のポイントは石炭紀前期の小川層の分布地となる。

小川層は海の中で堆積した層厚150m以上とされる地層で、下部の礫岩や砂岩などと上部の石灰岩や石灰質砂岩から成る部分に大別される。礫岩は円摩礫を多く含む岩相を呈す。石灰岩には細かいサンゴの化石を見つけることができる。

地元の藤原さん（釜石市文化財保護審議会委員）によると、大沢川はここ数日の降雨により普段の倍程の水量だとの事。溪岸、溪床が石灰岩からなる大沢川の滝の前で記念撮影を行った。あとは下るだけ。お疲れ様でした。

根浜地区北部北上帯の地質露頭前での集合写真と講師の説明を聞く参加者



うのすまい・トモスで「浜のくまさん」の特製弁当と「ごしょいも(菊芋)」豚汁を食した後、ジュラ紀北部北上帯の大露頭を観察した。見事な地層の罫重と褶曲構造などが観察でき、1枚数センチの地層が約4000年で堆積するとの説明などを頂きました。





旧釜石鉱山事務所前での集合写真

根浜地区での観察のあと、旧釜石鉱山事務所へ向かった。館内の見学前の記念撮影を行った。

旧釜石鉱山事務所は、釜石鉱山株式会社が総合事務所として使用していた建物で、2008年に所有していた日鉄鉱業株式会社が鉱山関係資料とともに釜石市に寄贈したものである。(事務所は写真に写ってません)

写真の背景は銅選鉱場施設の跡で、鉄で有名な釜石鉱山であるが、実は銅による利益の方が大きかったとの事である。



旧釜石鉱山事務所で説明を聞く参加者

館内1階は、昭和30年代の事務所を再現したもので古い計算機や懐かしいワープロなどが展示されており、当時の仕事風景に思いを馳せた。

2階は、釜石鉱山で採掘された鉱物や明治時代に作られたナウマンの地質図の実物などの展示物を見学した。なお、釜石鉱山の鉱床は、午前を観察したような古生代の地質と、白亜紀に貫入した花崗閃緑岩などの岩体との熱接触部に形成された鉱床である。

このような地質に関する展示物の他、鉱山の歴史や、釜石鉱山学校など多い時には6000人の鉱員とその家族の暮らしに関する多数の資料を見学した。



最後にズリ山の見学

館内見学のあと、ズリ山の見学に向かった。ズリは、ベルコンで高さ100m以上にまで盛土されている。また、排水施設も併設されており、目前に砒素などの有害物を検知するための養魚池があった。また、下からは見えなかったが、盛土の上面は、メガソーラー発電用地として利用されているとの事であった。

見学の最後に小野寺支部長からまとめのご挨拶を頂戴し、解散、帰路に着いた。今日一日、林道を歩くハードなスケジュールでしたが、無事に予定行程を終了でき、参加者の皆様、講師である望月氏・佐藤氏・森氏に深く感謝申し上げます。皆様お疲れ様でした。(予定時間を超過して済みませんでした。菅原)